

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	
年組	1年1組		教科書(発行所)	わたしたちの地理総合(二宮書店)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1章 地図とGISの活用 1節 球面上の世界 2節 国家の領域と領土問題	1 球面上での生活①	○		○	<p>学習の目標</p> <p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。</p> <p>授業の進め方</p> <p>教科書を読み込み、ワークブックにまとめ、問題演習を通じて知識の定着を図る。</p> <p>また、作図や資料から当該地域の特色や課題を読み取り、解決の方向性や将来の在り方を考える。</p> <p>学習の方法</p> <p>予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。ワークブックに書き込み理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。</p> <p>気候や地形、そこに住む人々の歴史や生活等に注目して現代社会おける諸課題を捉えてほしい。</p> <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度 ・地理事象への関心と課題意識を高める。 ・諸問題に対する思考力・判断力・表現力 <p>地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能 ・地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、まとめたりしている。また、現代の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、知識を身に付けている。 <p>評価の方法</p> <p>授業中の活動状況 課題の提出状況 小テストや定期考査の状況 資料の読解状況</p>
		2 球面上での生活②	○		○	
5	3節 国内や国家間の結びつき 4節 日常生活のさまざまな地図	1 国家の領域と海洋の役割	○		○	
		2 日本の位置と領土問題	○	○	○	
6	2章 生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化	1 国家をこえた結びつき	○		○	
		2 観光による結びつき	○	○	○	
7	2節 産業の発展と文化	1 身の回りにあるさまざまな地図	○		○	
		2 地理情報システムのしくみと使い方	○	○	○	
8	3節 言語・宗教と生活文化	1 地球上の地形のなりたち	○		○	
		2 山地と平野	○	○	○	
9	4節 グローバル化と文化	3 海岸部の生活	○		○	
		4 地球上の気候のなりたち	○	○	○	
10	3章 地球的課題と協力 1節 人口・食糧問題	1 農業の地域性	○	○	○	
		2 農業と生活文化	○		○	
11	2節 居住・都市問題	3 工業の地域性	○	○	○	
		1 世界の言語	○		○	
12	3節 資源・エネルギー問題	2 世界の宗教	○		○	
		3 1~3 地域統合 EU	○		○	
1	4節 地球環境問題 4章 生活圏の諸課題 1節 自然環境と防災	4 4~6 グローバル化 アメリカ	○		○	
		1 世界の人口問題	○	○	○	
2	2節 持続可能な地域づくり	2 人口増加 中国とインド	○	○	○	
		3 人口停滞 スウェーデンと日本	○	○	○	
3		1 世界の居住・都市問題	○		○	
		2 大都市 ロンドン・ニューヨーク	○		○	
【備考】	※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。	3 密集都市 メキシコシティ・ジャカルタ	○		○	
		1 世界の資源・エネルギー	○	○	○	
		2 エネルギー資源の生産・消費と課題	○		○	
		3 再生可能なエネルギーへの移行	○	○	○	

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	
年組	1年1組		教科書(発行所)	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える(山川出版社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1章 結びつく世界と日本の開国	世界のつながり/歴史の扉①② 18世紀の東アジアにおける社会と経済 貿易が結んだ世界と日本 産業革命 中国の開港と日本の開国 市民革命 国民国家とナショナリズム 明治維新 日本の産業革命 帝国主義 変容する東アジアの国際秩序 日露戦争と東アジアの変動	○	○		学習の目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
5			○	○	○	
6			○	○	○	
7			○	○	○	
7	第3章 総力戦と社会運動	第一次世界大戦の展開 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 世界経済の変容と日本 アジアのナショナリズム 大衆の政治参加 消費社会と大衆文化 世界恐慌の時代 ファシズムの伸長と共産主義 日中戦争への道 第二次世界大戦の展開 第二次世界大戦下の社会 国際連合と国際経済体制 占領と戦後改革 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 日本の独立と日米安全保障条約 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	○	○		授業の進め方 ・地図や写真などを読みとる活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気づかせる。 ・19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。
8			○	○	○	
9			○	○	○	
10			○	○	○	
11	第4章 経済危機と第二次世界大戦	世界恐慌の時代 ファシズムの伸長と共産主義 日中戦争への道 第二次世界大戦の展開 第二次世界大戦下の社会 国際連合と国際経済体制 占領と戦後改革 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 日本の独立と日米安全保障条約 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	○	○		学習の方法 ・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。
12			○	○	○	
			○	○	○	
			○	○	○	
12	第5章 冷戦と世界経済	冷戦下の地域紛争と脱植民地化 軍拡競争から緊張緩和へ 地域連携の形成と展開 計画経済とその波及 日本の高度経済成長 アジアのなかの戦後日本 石油危機 冷戦の終結とソ連の崩壊 地域統合の拡大と変容 地域紛争と国際社会 現代と私たち 現代的な諸課題の形成と展望	○	○		評価の観点 ・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。 ・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。
1			○	○	○	
2			○	○	○	
3			○	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						
評価の方法 出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	地理総合 世界に学び地域へつなぐ(二宮書店)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1章 地図とGISの活用 1 球面上の世界 2 日本の位置と領域	1.位置の基準 2.時間の基準 1.視点を変えてみた日本の位置 2.国家とその領域 3.海に広がる日本の領域 4.日本の領域に関する問題	○			学習の目標 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
5	3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	1.国家間の結びつき 2.交通・通信による結びつき 3.貿易・物流による結びつき 4.観光による結びつき 1.身の回りの地図を集める 2.地理院地図の活用 3.GISの仕組みと役割	○	○	○	
6	第2章 地理的環境の特色 1 地形と生活文化 2 気候の地域性	1.変動帯とプレート 2.河川がつくる地形と生活 3.海岸の地形と生活 1.大気循環 2.気候の地域性 3.ケッペンの気候区分 4.熱帯の自然環境と生活	○	○	○	授業の進め方 教科書、資料集を読み込み、演習ノートにまとめ、演習問題を通じて知識の定着を図る。 また、作図や資料から当該地域の特色や課題を読み取り、解決の方向性や将来の在り方を考える。
7			○	○	○	
7		5.乾燥帯の自然環境と生活 6.温帯の自然環境と生活 7.亜寒帯・寒帯の自然環境と生活	○	○	○	学習の方法 予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。資料集や参考書を読み理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。 気候や地形、そこに住む人々の歴史や生活等に注目して現代社会における諸課題を捉えてほしい。
8	3 産業と生活文化	1.農業の発展と生活文化 2.工業の発展と生活文化 3.サービス業の発展と生活文化	○	○	○	
9	4 宗教・言語と生活文化 第3章 世界各地の生活文化	1.宗教の分布と生活文化 2.言語の分布と生活文化 3.移民と難民 4.生活文化の多様性	○	○	○	評価の観点 ・知識・技能 地理の事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ・思考・判断・表現 地理に関わる事象の意味、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、国土に対する愛情、各国の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚を深める。
10	5 多様な気候と生活文化 2 宗教の多様性と生活文化	1.自然環境と生活文化 2.経済成長と自然環境の変化による課題 1.多民族社会とASEANの統合 2.宗教にわたる生活文化と産業	○	○	○	
11	6 経済統合による生活文化の変化 9 土地の開発による生活文化の形成 第4章 地球的課題と国際協力 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題	1.経済発展の礎 2.産業・交通の発達による一体化 3.統合の背景と言語・宗教の多様性 4.経済統合と政治統合 1.農牧業の発展と生活文化 2.開発による発展と課題 1.環境問題と持続可能な社会 2.国境を越える汚染 3.森林減少・砂漠化とその対策 4.気候変動とその対策 1.鉱産・エネルギー資源と課題 2.リサイクル・再生可能エネルギー	○	○	○	
12	3 人口・食料問題	1.人口と人口問題 2.世界各地の人口問題 3.2つの食料問題 4.食料問題の背景と解決策	○	○	○	
1	4 居住・都市問題 第5章 生活圏の諸課題	1.発達する都市 2.都市への人口集中にともなう問題 3.居住・都市問題と都市計画	○	○	○	
2	1 日本の自然環境と防災 2 生活圏の諸課題と地域調査	1.世界からみた日本の地形の特色 2.世界からみた日本の気候の特色 3.風水害と防災 4.火山の噴火と防災 5.地震・津波と防災 6.都市型災害と防災 7.防災への心構え 1.主題図からみた日本の特徴と課題 2.事例地域の選定～事前調査	○	○	○	
3		3.現地調査～調査地図の作成	○	○	○	評価の方法
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						・定期考査の得点 ・小テストの得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2				
年組	2年2組		教科書(発行所)	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える(山川出版社)					
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目			
			知	思	態				
4	第1章 結びつく世界と日本の開国 第2章 国民国家と明治維新	世界のつながり/歴史の扉①②	○	○	○	学習の目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。			
5		18世紀の東アジアにおける社会と経済 貿易が結んだ世界と日本 産業革命 中国の開港と日本の開国 市民革命 国民国家とナショナリズム 明治維新	○	○					
6		日本の産業革命 帝国主義 変容する東アジアの国際秩序 日露戦争と東アジアの変動	○	○					
7			○	○					
7		第3章 総力戦と社会運動	第一次世界大戦の展開 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 ヴェルサイユ体制とワシントン体制	○			○	○	・地図や写真などを読みとる活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気づかせる。 ・19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。
8				○			○		
9			世界経済の変容と日本 アジアのナショナリズム 大衆の政治参加 消費社会と大衆文化 世界恐慌の時代 ファシズムの伸長と共産主義	○			○		
10	日中戦争への道 第二次世界大戦の展開 第二次世界大戦下の社会 国際連合と国際経済体制 占領と戦後改革		○	○					
11	冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 日本の独立と日米安全保障条約 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題		○	○					
12	第4章 経済危機と第二次世界大戦		○	○	○	学習の方法 ・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。			
12		第5章 冷戦と世界経済	冷戦下の地域紛争と脱植民地化 軍拡競争から緊張緩和へ 地域連携の形成と展開	○			○	○	評価の観点 ・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。 ・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。
1			計画経済とその波及 日本の高度経済成長 アジアのなかの戦後日本	○			○		
2			第6章 世界秩序の変容と日本	石油危機 冷戦の終結とソ連の崩壊 地域統合の拡大と変容 地域紛争と国際社会 現代と私たち			○		
3	現代的な諸課題の形成と展望	○		○	評価の方法 出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する				
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。									

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	3			
年組	2年3組、4組文系		教科書(発行所)	歴史総合 近代から現代へ(山川出版社)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目		
			知	思	態			
4	第1章 結びつく世界 第2章 近代・ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第3章 明治維新と日本の立憲体制 第4章 帝国主義の展開とアジア	アジア諸地域の繁栄と日本 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	○	○	○	学習の目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
5		19世紀前半のヨーロッパ 19世紀後半のヨーロッパ 19世紀のアメリカ大陸 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化	○	○	○			
6		中国の開港と日本の開国 明治維新と諸改革 明治初期の対外関係 自由民権運動と立憲体制 条約改正と日清戦争	○	○	○			
7		日本の産業革命と教育の普及 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強の対立 日露戦争とその影響	○	○	○			
7		第5章 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦とロシア革命 国際平和と安全保障	○	○		○	授業の進め方 ・地図や写真などを読みとる活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気づかせる。 ・19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。
8		第6章 経済危機と第二次世界大戦	アジア・アフリカ地域の民族運動 大衆消費社会と市民生活の変容 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	○	○		○	
9		世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭 日本の恐慌と満州事変 日中戦争と国内外の動き	○	○	○			
10	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	第二次世界大戦と太平洋戦争 新たな国際秩序と冷戦の始まり	○	○	○			
11	第8章 冷戦と世界経済	アジア諸地域の独立 占領下の日本と民主化 占領政策の転換と日本の独立	○	○	○	学習の方法 ・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。		
12		集団防衛体制と核開発 米ソ両大国と平和共存 西ヨーロッパの経済復興 第三世界の連携と試練	○	○	○			
12		55年体制の成立 日本の高度経済成長 核戦争の恐怖から軍縮へ 冷戦構造のゆらぎ 世界経済の転換 アジア諸地域の経済発展と市場開放	○	○	○			
1	第9章 グローバル化する世界	冷戦の終結と国際情勢 ソ連の崩壊と経済のグローバル化	○	○	○	評価の観点 ・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。 ・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。		
2		開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 地域紛争の激化 国際社会のなかの日本	○	○	○			
3		第10章 現代の課題	現代世界の諸課題 現代日本の諸課題	○	○		○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								
評価の方法 出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する								

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2		
年組	2年4組理系		教科書(発行所)	歴史総合 近代から現代へ(山川出版社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第1章 結びつく世界	アジア諸地域の繁栄と日本 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	○	○	○	学習の目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。	
5	第2章 近代・ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパ経済の動向と産業革命 アメリカ独立革命とフランス革命 19世紀前半のヨーロッパ 19世紀後半のヨーロッパ	○	○	○		
6	第3章 明治維新と日本の立憲体制 第4章 帝国主義の展開とアジア	19世紀のアメリカ大陸 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 中国の開港と日本の開国 明治維新と諸改革 明治初期の対外関係 自由民権運動と立憲体制 条約改正と日清戦争 日本の産業革命と教育の普及 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強の対立 日露戦争とその影響	○	○	○		
7			○	○	○		
7	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦とロシア革命 国際平和と安全保障 アジア・アフリカ地域の民族運動 大衆消費社会と市民生活の変容	○	○	○		授業の進め方 ・地図や写真などを読みとる活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気づかせる。 ・19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。
8			○	○	○		
9	第6章 経済危機と第二次世界大戦	社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭	○	○	○		
10	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	日本の恐慌と満州事変 日中戦争と国内外の動き 第二次世界大戦と太平洋戦争 新たな国際秩序と冷戦の始まり アジア諸地域の独立 占領下の日本と民主化 占領政策の転換と日本の独立 集団防衛体制と核開発 米ソ両大国と平和共存	○	○	○		
11	第8章 冷戦と世界経済	米ソ両大国と平和共存 西ヨーロッパの経済復興 第三世界の連携と試練	○	○	○		
12			○	○	○	学習の方法 ・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。	
12			○	○	○		
1	第9章 グローバル化する世界	55年体制の成立 日本の高度経済成長 核戦争の恐怖から軍縮へ 冷戦構造のゆらぎ 世界経済の転換 アジア諸地域の経済発展と市場開放 冷戦の終結と国際情勢 ソ連の崩壊と経済のグローバル化	○	○	○		
2		開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 地域紛争の激化 国際社会のなかの日本	○	○	○	評価の観点 ・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。 ・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。	
3	第10章 現代の課題	現代世界の諸課題 現代日本の諸課題	○	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

評価の方法

出席・授業態度、定期考査
課題・ノート等の提出物
上記の内容により評価する

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	3		
年組	3年1組		教科書(発行所)	現代の日本史 改訂版(山川出版社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	第1章 開国と維新	1 明治維新の背景 2 西洋への開国 3 政治秩序の崩壊	○	○	○	○	学習の目標 地理的な技能、知識を身に付け、それらを活用して、現代社会の諸地域の特色や諸課題を地誌的に考察し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
5	第2章 近代国家の形成と発展	1 立憲政治をめざして 2 憲法の制定と議会の開設 3 東アジアの国際環境と条約改正問題 4 清国との戦い 5 藩閥・政党の対立と協力 6 ロシアとの戦い	○	○	○	○	
6	第3章 産業化の推進と国民生活の変化	7 日露戦後の国際関係と日本 1 産業革命の進展 2 資本主義の確立とその特色	○	○	○	○	
7							
7		3 社会問題の発生 4 国民文化の形成 5 国民生活の変化	○	○	○	○	
8	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	1 第一次世界大戦と日本の外交 2 デモクラシーの高まりと政党 3 国際協調と軍縮の進展 4 政党政治の時代 5 大戦中から戦後の経済と社会 6 都市化と大衆文化	○	○	○	○	
9							
10	第5章 第二次世界大戦と日本	1 昭和恐慌 2 協調外交のゆきづまり 3 満州事変から国際的孤立へ 4 軍部の政治的台頭 5 中国との戦い 6 第二次世界大戦と世界新秩序	○	○	○	○	授業の進め方 教科書、資料集を読み込み、要点ノートにまとめる。受験への対応も視野に、演習問題を通して知識の定着を図る。
11		7 太平洋戦争 8 日本の敗北	○	○	○	○	
12	第6章 占領下の日本	1 占領政策の展開	○	○	○	○	
12							
12	第7章 日本の自立と経済成長 第8章 現代の世界と日本	2 戦後民主主義の定着 3 政治・経済の再建 4 独立の回復 1 55年体制の成立 2 安保体制下の日本 1 激動する世界 2 国内政治の再編成 3 アジア・太平洋地域と日本 4 21世紀の課題	○	○	○	○	
1							学習の方法 予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。現代世界の諸地域及び現代日本について考察する際には、昨年度学んだ知識の活用が必要となるため、履修内容の復習に努めること。
2							
3							
							評価の観点 ・学習内容に関する関心・意欲・態度 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高める。 ・諸問題に対する思考力・判断力・表現力 現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・資料活用の技能 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ・学習内容の知識・理解 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
							評価の方法 授業中の活動状況 課題の提出状況 小テストや定期考査の状況 資料の読解状況
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	2		
年組	3年2組		教科書(発行所)	現代の日本史 改訂版(山川出版社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	第1章 開国と維新	1 明治維新の背景 2 西洋への開国 3 政治秩序の崩壊	○	○	○	学習の目標 地理的な技能、知識を身に付け、それらを活用して、現代社会の諸地域の特色や諸課題を地誌的に考察し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	
5	第2章 近代国家の形成と発展	1 立憲政治をめざして 2 憲法の制定と議会の開設 3 東アジアの国際環境と条約改正問題 4 清国との戦い 5 藩閥・政党の対立と協力 6 ロシアとの戦い	○	○	○		
6	第3章 産業化の推進と国民生活の変化	7 日露戦後の国際関係と日本 1 産業革命の進展 2 資本主義の確立とその特色	○	○	○		
7							
7		3 社会問題の発生 4 国民文化の形成 5 国民生活の変化	○	○	○		
8	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	1 第一次世界大戦と日本の外交 2 デモクラシーの高まりと政党 3 国際協調と軍縮の進展 4 政党政治の時代 5 大戦中から戦後の経済と社会 6 都市化と大衆文化	○	○	○		
9							
10	第5章 第二次世界大戦と日本	1 昭和恐慌 2 協調外交のゆきづまり 3 満州事変から国際的孤立へ 4 軍部の政治的台頭 5 中国との戦い 6 第二次世界大戦と世界新秩序	○	○	○		
11							
12	第6章 占領下の日本	7 太平洋戦争 8 日本の敗北 1 占領政策の展開	○	○	○		
12							
12	第7章 日本の自立と経済成長	2 戦後民主主義の定着 3 政治・経済の再建 4 独立の回復	○	○	○		
1	第8章 現代の世界と日本	1 55年体制の成立 2 安保体制下の日本 1 激動する世界 2 国内政治の再編成 3 アジア・太平洋地域と日本 4 21世紀の課題	○	○	○		
2							
3							
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

授業の進め方
教科書、資料集を読み込み、要点ノートにまとめる。受験への対応も視野に、演習問題を通して知識の定着を図る。

学習の方法
予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。現代世界の諸地域及び現代日本について考察する際には、昨年度学んだ知識の活用が必要となるため、履修内容の復習に努めること。

評価の観点
 ・学習内容に関する関心・意欲・態度
 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高める。
 ・諸問題に対する思考力・判断力・表現力
 現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
 ・資料活用の技能
 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
 ・学習内容の知識・理解
 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

評価の方法
 授業中の活動状況
 課題の提出状況
 小テストや定期考査の状況
 資料の読解状況

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	日本史B	単位数	4		
年組	3年3組文系		教科書(発行所)	詳説 日本史B(山川出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	第6章 [④]	幕藩体制の確立 1織豊政権 2桃山文化 3幕藩体制の成立	○	○	○	○	学習の目標 我が国の歴史展開について、世界史的視野にたつて各時代の特色及び変遷を総合的に考察し、我が国の文化と伝統についての認識を深める。 また、歴史学習を通じて、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 授業の進め方 近世・近代・現代の日本の歴史を中心に授業を進めるが、世界の歴史と関連させて総合的に考察する。 文献・絵画・実物教材などの資料を活用しながら、歴史的事象を理解する方法を身に付ける。 学習の方法 歴史的事項や人物名をただ暗記するのではなく、歴史的事象の背景や影響などを総合的に理解する。また、それらを確認するために小テストなどを行う。 評価の観点 ・学習内容に関する関心・意欲・態度 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高める。 ・諸課題に対する思考・判断・表現 世界的視野に立つて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と特色について認識を深める。 ・資料活用の技能 歴史に関する資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する。 ・知識・理解 我が国の歴史の展開について世界的視野に立つて総合的に理解し、その知識を身に付ける。 評価の方法 「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価する。 おもに、「出席」、「授業態度」、「定期考査」、「小テスト」、「ノートなど」により評価する。
5	第7章 [③]	幕藩体制の展開 1幕政の安定 2経済の発展 3元禄文化	○	○	○	○	
6	第8章 [③]	幕藩体制の動揺 1幕政の改革 2幕府の衰退 3化政文化	○	○	○	○	
7							
7	第9章 [②]	近代国家の成立 1開国と幕末の動乱 2明治維新と富国強兵	○	○	○	○	
8		3立憲国家の成立と日清戦争 4日露戦争と国際関係	○	○	○	○	
9	第10章 [④]	5近代産業の発展 6近代文化の発達 近代日本とアジア	○	○	○	○	
10		1第一次世界大戦と日本 2ワシントン体制 3市民文化 4恐慌の時代 5軍部の台頭 6第二次世界大戦	○	○	○	○	
11							
12							
12	第11章 [①]	占領下の日本 1占領と改革 2冷戦の開始と講和	○	○	○	○	
1	第12章 [④]	高度成長の時代 155年体制、2経済復興から高度成長へ	○	○	○	○	
2							
3							
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	公共	単位数	2	
年組	2年1・2組		教科書(発行所)	高等学校 新公共(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1編1章 公共的空間と私たち	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自立 ③多様性と共通性 ④伝統文化とのかかわり ⑤自立した主体をめざして	○	○	○	学習の目標 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
5	2章 人間としてのあり方生き方 3章 公共的空間での基本的原理	①人間と社会のあり方についての見方・考え方 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配 ③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法に生きる基本的原理	○	○	○	
6	2編1章 法的な主体となる私たち 1 法や規範の意義と役割	①私たちと法 ②法と基本的人権 ③④自由、平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全に生きる権利 ⑥法をよりよいものに	○	○	○	
7	2 契約と消費者の権利・責任	①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	○	○	○	
授業の進め方						
教科書内容の読み込み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後直面する諸課題を解決へと導く手立てとしてほしい。						
7	3 司法参加の意義	①裁判所と司法 ②国民の司法参加	○	○	○	
8	2章 政治的な主体となる私たち 4 政治参加と公正な世論形成	①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉	○	○	○	
9	5 国際社会と国家主権	①国家と国際法 ②国境と領土問題	○	○	○	
10	6 日本の安全保障と防衛 7 国際社会の変化と日本の役割	③国際連合の役割と課題 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制 ③核兵器の廃絶と国際平和 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題	○	○	○	
11	3章 経済的な主体となる私たち 8 雇用と労働問題 9 社会の変化と職業観	③国際社会における日本 ①私たちと経済 ②労働者と権利 ③労働環境と課題 ①日本経済 ②技術革新の進展 ③現代企業 ④中小企業 ⑤日本の農林水産業	○	○	○	
12	10 市場経済の機能と限界	①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ ③経済発展と環境保全 ④国民所得と生活	○	○	○	
評価の観点						
・知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。 ・思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。						
12	11 金融のはたらき 12 財政の役割と社会保障	⑤経済成長と国民の福祉 ①金融の意義と役割 ②金融のいま ①財政のしくみと租税	○	○	○	
1	13 経済のグローバル化	②日本財政の課題 ③社会保障と国民福祉 ④これからの社会保障 ①国際分業 ②国際収支と国際経済 ③外国為替相場 ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合	○	○	○	
2		⑥国際社会の貧困や格差 ⑦地球環境問題	○	○	○	
3		⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから ④インターネット投票 ⑤フェアトレード	○	○	○	
評価の方法						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						
・定期考査の得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	公共	単位数	2		
年組	2年3・4組		教科書(発行所)	高等学校 公共(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	1編1章 公共的空間と私たち	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④キャリア形成と自己実現 ⑤伝統や文化とのかかわり	○	○	○	学習の目標 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	
5	2章 人間としてのあり方生き方	①人間と社会のあり方についての見方・考え方	○	○	○		
6	3章 公共的空間での基本的原理	①人間の尊厳と平等 ②個人の尊厳 ③民主政治の基本的原理 ④法の支配 ⑤自由・権利と責任・責務 ⑥世界の主な政治体制 ⑦日本国憲法に生きる基本的原理	○	○	○		
	2編1章 法的な主体となる私たち	①私たちの生活と法 ②法と基本的人権 ③自由、平等に生きる権利と法・規範 ④法をよりよく変えていくために	○	○	○		
7	1 法や規範の意義と役割		○	○	○		
7	2 契約と消費者の権利・責任	①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	○	○	○		授業の進め方 教科書内容の読み込み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後直面する諸課題を解決へと導く手立てとしてほしい。
8	3 司法参加の意義	①裁判所と人権保障	○	○	○		
9	2章 政治的な主体となる私たち	①選挙の意義と課題 ②政治参加と世論形成	○	○	○	学習の方法 教科書に沿って授業を進める。その際、授業プリントを使用するので、丁寧に記入すること。ペアワークやグループワークでは、積極的に意見交換ができるよう、自分の考えを持ち、それを深める姿勢が求められる。授業での疑問点はそのままにせず、必ず質問すること。	
	4 政治参加と公正な世論形成	③国会と立法 ④内閣と行政の民主化 ⑤地方自治と住民の福祉	○	○	○		
10	5 国際社会と国家主権	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	○	○	○	評価の観点 ・知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。 ・思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。	
	6 日本の安全保障と防衛	①平和主義と安全保障 ②核兵器の廃絶と国際平和	○	○	○		
11	7 国際社会の変化と日本の役割	①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本	○	○	○	評価の方法	
	3章 経済的な主体となる私たち	①私たちと経済	○	○	○		
12	8 雇用と労働問題	①労働者の権利と労働問題	○	○	○	・定期考査の得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況	
	9 社会の変化と職業観	①技術革新の進展と産業構造の変化 ②企業の活動 ③農林水産業の現状とこれから	○	○	○		
12	10 市場経済の機能と限界	①市場経済と経済運営 ②市場経済のしくみ	○	○	○		
12	11 金融のはたらき	③経済発展と環境保全 ④経済成長と国民福祉	○	○	○	・知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。 ・思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。	
	12 財政の役割と社会保障	①金融の意義や役割 ①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉	○	○	○		
1	13 経済のグローバル化	①国際分業と国際貿易体制 ②国際収支と為替相場 ③経済のグローバル化と日本 ④地域的統合の動き	○	○	○	・知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。 ・思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。	
	2	⑤国際社会における貧困や格差 ⑥地球環境問題 ⑦資源・エネルギー問題 ⑧国際社会のこれから	○	○	○		
3	3編 ケーススタディ	①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③生命倫理 ④情報 ⑤国際社会の課題	○	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2		
年組	3年3組文系		教科書(発行所)	高等学校 改訂版 政治・経済(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法	①政治と法の機能 ②人権保障と法の支配 ③議会制民主主義と世界の政治体制	○			○	学習の目標 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 授業の進め方 教科書内容の読み込み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後直面する諸課題を解決へと導く手立てとしてほしい。
5		④日本国憲法の基本原則 ⑤平和主義と自衛隊 ⑥基本的人権の保障と新しい人権 ⑦国会の組織と立法⑧内閣の機構と行政				○	
6		⑨裁判所の機能と司法制度 ⑩地方自治制度と住民の権利 ⑪政党政治と選挙制度 ⑫民主政治における世論の役割①	○			○	
7						○	
7	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質	①経済社会の発展 ②経済主体と経済活動	○			○	学習の方法 予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。次に資料や参考書を読み理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。政治、経済、国際関係などの本質や動向を把握し自身の意見を述べるができるように多様な文献に目を通してほしい。
8		③市場経済の機能と限界 ④経済成長と景気変動⑤財政のしくみとはたらき				○	
9		⑥金融のしくみとはたらき ⑦物価の動き ⑧日本経済の歩み ⑨中小企業の地位と役割 ⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題		○		○	
10		⑫高度情報社会の進展と課題				○	
11	第3編 現代社会の諸課題	⑬労働問題 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題				○	評価の観点 ・学習内容に関する関心・意欲・態度現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高める。 ・諸課題に対する思考・判断・表現現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察する。 ・資料活用の技能現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ・学習内容の知識・理解現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解する。
12		①少子高齢社会と社会保障	○			○	
12	第1章 現代日本の政治や経済の諸課題	②地域社会の変貌と住民生活 ③雇用と労働をめぐる問題				○	評価の方法 ・定期考査の得点 ・小テストの得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況
1	第2章 国際社会の政治や経済の特質	④産業構造の変化と中小企業 ⑤農業と食糧問題	○			○	
2		①地球環境と資源・エネルギー問題 ②国際経済格差の是正と国際協力 ③人種・民族問題と地域紛争	○			○	
3						○	
【備考】							
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							